（別紙4（1））

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0390600153		
法人名	サン・ミルク　株式会社		
事業所名	横川目グループホーム長寿園		
所在地	北上市和賀町横川目13―3－4		
自己評価作成日	平成23年8月22日	評価結果市町村受理日	平成23年11月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0390600153&SCD=320

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	（財）岩手県長寿社会振興財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1　岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成23年9月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

事業所と職員は、利用者及び家族の思いを尊重し、共同生活の一員として常に利用者の立場に立った援助を行うために、以下の点を基本理念として取り組んでいる。
（1）．利用者様の安全、安心を第一とします。
（2）．利用者様の意志を最優先します。
（3）．地域のお役に立てる施設を目指します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

平成23年4月に事業を開始している。事業所は、緑豊かな閑静な地域の小学校の正門の前に位置している。この条件を活かし、小学校とは交流の機会が増していくことが期待される。また、運営推進会議の委員からの意見を積極的に取り入れ、地域に溶け込む努力をしている。ケアサービスについては、小さな状態の変化も的確に把握し、こまめに介護計画の検討・変更等を行い、きめ細かなケアを提供している。職員は、利用者や、来訪者へも、また、職員同士も、明るく丁寧な対応で、職員一人ひとりが質の高いケアサービスの提供に努力していることが窺われる。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価票

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・「理念」「職員の心構え」を掲示し、確認できるようにしている。 ・毎月の職員会議の中で、目標の策定にあたり「理念」の具体化を図っている。	事務室に「理念」「職員の心構え」を掲示している。毎月の職員会議の中で、「理念」の具体化を図るため、目標を策定している。また、本社と共通の「職場の教養」を日付ごとに申し送り時（例えば9月1日は「時の刻みは命の刻み」の本文を）に唱和している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・地域の行事等に参加するようにしている。また、。地域の方に少しでも施設を知っていただけるように地域の方も参加できる行事を企画している。	最初の運営推進会議において、委員から地区の盆踊りの案内をいただき、利用者と一緒に参加した。また、事業所主催の「夏祭り」を開催し、地域の方が6、70人の参加があった。祭りの参加者に、「この様な行事を実施していただき、地域が活性化出来て良かった」と感謝の言葉を頂いた。	隣接する小学校との交流を検討していって頂きたい。今後も、地域の方々に喜ばれる事業所を目指して、一層歩んでいっていただきたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・運営推進会議を通して、地域の代表の方に認知症や施設について知っていただこうと説明等を行っている。また、近くの学校等についても理解して頂けるように挨拶を職員全員で行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2か月毎に運営状況を振り返る機会として位置づけている。会議の中で頂く貴重なご意見をから、運営の改善に反映するようにしている。	6月の初めての運営推進会議で、地区の行事の案内を頂き、参加している。そのお礼とお返しに、事業所主催の夏祭りを実施し、多くの参加者から理解と感謝をいただいた。2ヶ月毎に開催を予定し、会議の中でいただく貴重なご意見を、運営の改善に反映するようにしたいと考えている。	今後は、利用者の保護や安全を確保するため、駐在所の方や消防署の方に会議に出席をいただき、意見や協力を得られるよう検討されることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・地域包括支援センターの担当者との連携を図り、意見等を頂いている。	運営推進会議の委員でもある地域包括支援センターの担当者との連携を図り、意見等を頂いている。また、市町村担当者とは、近隣のデイサービス訪問時に当該事業所へも寄っていただき、指導して頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束を行わないことを申し合わせ、日常の見守りやケアにあたっている。また、身体拘束についても勉強会を開き、拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束については、内部で勉強会を実施し、日常の見守りやケアにも活かし対応している。利用者への言葉かけも、明るく丁寧で好感が持てる。玄関は夜間については施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	・虐待について勉強をする機会をつくり、日頃の接遇やケアの見直しに努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・成年後見制度を利用されている方が、入居している。後見人（家族）と連携を図り安心して生活して頂けるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・利用契約時、条文を読んで説明し、意見等を尋ねたうえで契約締結を行っている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・玄関に意見箱を設置し、意見の聴収をおこなっている。	玄関に意見箱が設置している。これまで、投函されるような意見はなかった。毎月、本人の健康状態、事業所での暮らしぶりを、担当者の名前を書いて家族へ報告している。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・毎月の、職員会議の場の他、必要に応じて個別面談を行っている。	事業を開始して間もないことから、業務の役割分担、業務内容の気づき等、主にソフトの部分での意見が多く、毎日のミーティング時に対応策を話し合っている。また、職員が悩みがありそうだと感じた時は、個別面談を行って対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・日々の勤務に報いる上で、勤務体制（人員）の確保、適正な給与体位系、研修機会等を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・外部研修、内部研修の実施。法人で加入している倫理法人会の職場の教養を使用し活力朝礼を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・県のGH協会の定例会、研修会に参加するようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入所前に、出来る限り本人も連れて施設見学にいらして頂いている。また、事前面接を行い関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・訪問により、悩みや希望を把握するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・どのようなことを希望としているかを把握し、場合によっては居宅介護支援事業所と連携を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・調理や食事、掃除、お茶の時間など一緒にその日の予定を考えてみたり過ごしたりし、相互の関係づくりに心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・面会や行事などを通して、話を聞く機会を作り一緒に支えあえるような関係つくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・入所して持ってきて頂く物を、自宅で使っていたものや馴染みものを持ってきて頂くようにしている。	利用者の友人が訪ねてきたり、お盆には墓参りに出かけたりした。また、これまで利用していた美容院や理髪店を利用出来るよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者さんが孤立することなく過ごしていただけるように、利用者同士の関係性を理解し利用者間のコミュニケーション支援を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・他の施設等との連携は努めている。退所になった方についても面会に伺っている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・暮らし方の希望や意向の把握については、入所時の面会の際に行う。また、毎日のケアの中でも希望等について聞き取りを行い日常生活やケアに生かせるように努めている。	日常生活の希望・意向の把握については、利用開始時の面会時に行っている。また、食事・入浴・散歩・日向ぼっこ等毎日のケアの中でも聞き取りを行い、日常生活やケアに活かせるように努めている。テレビ番組の「大奥」の鑑賞の後、CMでミスタードーナツが流れ、その後ドーナツを買いに車で出かけたことがあり、好評であった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入所前の訪問や面会時、また毎日の生活を通して聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・本人の生活パターンや心身の状況等について把握できるように努めている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・先ず、利用者本人の意向、心身の状況の把握と検討を行い、ケアの課題を抽出している。検討にあたっては、家族や職員の意見も反映するようにしている。	介護計画は、日常の細かな変化にも見直しを行っており、きめ細かなケアが提供されている。職員一人ひとりが、質の高いケアサービスの提供を目指して努力されている様子がうかがわれる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の様子や介護・処置の記録をし、介護計画の見直しの参考にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・当施設は、1ユニットを主としており、この範囲内で可能なサービス対応に心がけている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・可能な範囲で、民生委員、行政区長、警察、消防、近隣住民の協力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・かかりつけ医の受診について、家族と職員間で情報の共有に努めている。	かかりつけ医の受診について、定期的な通院は原則家族が行っているが、緊急の場合は、事業所が対応している。利用者家族と職員間において情報の共有に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・週1回、GH専属の看護師が健康管理を行っている。また、急変時についても連絡体制を築き、安心して生活を送れるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入退院時の情報交換や相談を行い、医療機関との連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・入退院によってADLの状況が変わり、重度化したケースがあったがその際は、ケアプランの見直しを行い援助方法について職員間で確認をした。 ・終末期に向けた方針としては、対応していきたいと考えている。今後、検討していく。	重度化した利用者があり、ケアプランの見直しを行い援助方法について職員間で確認をしている。終末期に向けた方向性（方針）としては、対応していきたいと考えている。	終末期のケアについては、勉強会を重ね、方針の策定、業務マニュアルの策定等検討されることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・緊急時の対応マニュアルを作成し備えている。内部研修棟で、対応の仕方について確認をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・避難訓練を実施している。地域との協力体制がとれるように今後、調整をしていく。	6月に1回目の避難訓練を実施している。2回目は2月に予定している。地域との協力体制については、今後の課題となっている。3月11日の東日本大震災時は、建設中だったが、被害は全く無かった。	推進会議に消防関係の方や駐在所の方に参加いただき理解と協力を求めていくことと、夜間の訓練、非常持ち出し物品の整備等検討されることを期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・高齢者への接遇、言葉づかいなど常に人生の先輩として敬う気持ちに留意している。	利用者や来訪者に対して、明るく丁寧な言葉かけであり、また職員間も馴れ馴れしさは感じらず、好感が持てる雰囲気である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・毎月、モニタリングを行い本人の意向の聞き取り（把握）に努めている。また、日々の暮らしの中でも遠慮せず気持ちが出せるように傾聴している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・個々のその日の体調や気分などをみて、声がけ等で確認しながら援助している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・本人や家族の意向によって、美容院へ出かけたり出張美容を利用している。 ・日頃から、季節や場にあった身だしなみができるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・献立をたてることから、利用者さんと一緒に行い意見を取り入れて立てている。献立をもとに買い物についても一緒に行い、食事がより楽しみになるように援助している。また、調理については可能な限りで参加して頂いている。	献立は、利用者の意見を取り入れて立てている。買い物も一緒に行っている。食事については、皮むき等食材の準備から、後片付け等可能な限り、加わっていただけるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・季節の食材を取り入れて献立を作成している。また、献立については栄養士にみてもらいバランスとれた献立作成に努めている。水分チェック表を用いて確認をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・食後の歯磨きを援助、誘導している。また、寝る際はポリデントに浸すなどして清潔を保持できるようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・排泄のパターンを把握し、声がけ誘導をしてトイレでの排泄ケアに取り組んでいる。	排泄に関する勉強会を重ね、利用者一人ひとりの排泄の状態に応じ、トイレでの排泄ケアに取り組んでいる。トイレ誘導は、さりげなく行い、羞恥心への配慮などプライバシーが守られている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・個々の排便状況の把握を行い、便秘の方については食事や乳製品を飲んで頂いたり、運動を取り入れたりと対応して安易にお薬に頼らなくてもいいように行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・本人の体調面や個々の希望により入浴を行っている。午後から、夜寝る前の入浴を行い自宅と同じ状況、習慣を維持し安心して就寝できるように努めている。	入浴は全員が介助が必要である。3名の方が夕方から夜の時間帯に入浴をしている。夕食→お風呂→パジャマに着替える→就寝というリズムが出来ている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・一人ひとりの生活習慣を大事に午睡なども取り入れている。夜、ゆっくりと休めるように就寝前の入浴を行ったりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・個々の主治医の指示薬の理解と服薬管理に努めるとともに、変化が見られた際には医師（及び家族）への報告に留意している。また、服薬チェック表で個々に確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・個々の心身の状況や意向を尊重し、日々の生活の中での役割やグループ活動への参加を進めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・希望により、施設周辺の散歩を行っている。また、その日の天気からドライブに出かけたり買い物に出かけたりしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・近人管理を尊重しつつも、紛失やそれによるトラブル防止の為、お財布を預からせていただいている。買い物や外出の際に立替やお財布をお返しして買い物を楽しんでいただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話をかけたい方については、家族の了解を得て行っている。また、携帯電話をお持ちの方については受話については自由に行っていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・家庭的な生活空間や環境作りを目指してカレンダー、絵画、置物などで家庭的な雰囲気つくりに努めている。また、季節に合った花を飾るなどして落ち着ける環境作りをしている。	訪問日は、「中秋の名月」の日であり、お団子・ススキ等お月見の飾りがしてあった。カレンダー・絵・折り紙飾り等、家庭的雰囲気が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・居間だけでなく、様々なところに腰かけを準備し気の合った仲間とくつろげるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・本人の馴染みの家具や、趣味などを持参して頂き居室の雰囲気つくりをしている。	本人の馴染みの小ダンス、小机などの家具を持ち込んだり、自分の作品を飾って居室の雰囲気作りをしている。また、鏡台を置き、身だしなみに気を配ったりしている。ある利用者は、大事にしている人形2体を段ボールの箱に入れて、どこにも持ち歩いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・施設内の同船をわかりやすく設計し、必要に応じて表示を行うなど日常生活を安心して送れるようにしている。		